

SKKと東北大学工学部との 歴史的関係

(教育理念)実学の奨め



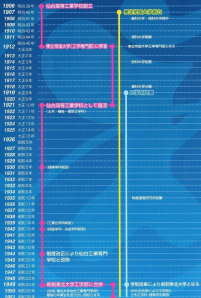
貴方は仙台高等工業学校が東北大学工学部と深い関係にあったことをご存知ですか？

1. 仙台高等工業学校(SKK)はどんな学校だったのでしょうか

① 仙台高等工業学校の変遷

- ▶ 仙台高等工業学校は明治39年、東京・大隈・名志屋に次ぐ全国第4番目の私立高等工業学校として仙台に設立されました。
- ▶ 明治40年東北帝国大学が創立されましたが、文部省の総合大学化の構想から、SKKは東北帝国大学の附属となり、明治45年東北帝国大学工学部となりました。

● SKKの変遷と東北大学工学部の関係



▶大正8年東北帝國大学に工学部が設けられ、工学専門部は廃止の機会になりましたが、大正10年間保存者の努力により仙台高等工業学校として復活しました。

▶戦後教育制度が改正され、昭和24年専制大学が発足し国立専門学校の廃止が決定。SKKは東北大学工学部に合併され、昭和26年最終期の卒業生を送り出し、閉校となり45年の歴史の幕を閉じました。

②仙台高等工業学校は何処にあったのでしょうか

▶仙台高等工業学校は明治42年東北大学片平キャンパス内の石町名保小路・鉄線町・袋崎町・七軒丁で囲まれた区画に校舎を新築しましたが、大正8年東北帝國大学工学部に校舎を移譲したため、新たに片平丁・八軒丁・七軒丁・袋崎町に囲まれた区画に校舎を新築しました。この校舎も昭和26年東北大学工学部に移譲されました。



▲東北帝國大学工学専門部校舎



▲大正10年移築されたSKK校舎



▲移築するSKK建築中の校舎



▲建築中校舎に施されるシンボリックマーク



片平キャンパスと
SKK敷地

2.実学の契機

①仙台高等工業学校の教育理念

仙台高等工業学校の教育理念は、近代中川謙二郎校長が示したもので「常に学理と実践に努め、応用の純治を重んじ、固に理論に験せしは前に進せし、善美優盛なる工業者を養成するにあり」とされました。

②教育の状況

日常教育においても学理の教育は勿論、実習・実験・製作・製図などに多くの時間をかけ、また夏休みも春季・夏季の休学期には社会実習のため、国内は勿論関西・九州などの工場や交際、鉄道、電灯会社に学生を派遣し実社会における現場の実態を学習させ、社会で役立つ人材の育成につとめておりました。



▲土木工学科の測量実習



▲機械工学科の実習



▲無線実験を指導される八木勇次教授



▲建築学科の古建築物実測調査

※古建築物の実測調査のデータは古建築物の改修工事に役立っています。

③仙台高等工業学校で教鞭をとられた諸先生

仙台高等工業学校では東北帝国大学の諸先生も教授または講師として教鞭に当たられ、工業化学科では学科創設時事務が忙しかつ、東北帝国大学の諸先生から請書を頂く形出となったとのことです。また仙台高等工業学校の教授から東北帝国大学教授となられた方もおられました。

④実学の継承

実学を重んずる教育理念は仙台高等工業学校から東北帝国大学工学専門部、東北帝国大学工学部さらに東北大学工学部へと連続として受け継がれ、現在も東北大学の教育理念として、実学を重んずる方針がとられております。

⑤実学の成果

仙台高等工業学校は我が国の工業界の中枢を担う多くの人材を輩出し、我が国を盛り上げ日本の工業発展に貢献して来ました。

3.青葉工業会の設立と青葉記念会館

①青葉工業会の設立

昭和31年東北大学工学部同窓会工明会と仙台高等工業学校同窓会(SKK同窓会)は前身組織はありましたが、合同同窓会として「青葉工業会」が決定しました。

②青葉記念会館の建設

昭和51年仙台高等工業学校創立75周年記念及び東北大学工学部創立60周年記念の記念事業として「青葉記念会館」を建設することとなり、仙台高等工業学校卒業生も資金活動を積極的に展開するとともに、建物の建設には建築学科卒業生の絶大な努力により、設備の格好で完成させることが出来た。



▲青葉記念会館

4.SKK同窓会の現状

①SKK同窓会の再生

青葉工業会が設立された後、仙台教養祭を契機としてSKK同窓会再生の気運が高まり、青葉工業会のご了解の下、独自の同窓会活動を進めて、創立75周年記念、同80周年記念、同90周年記念の各事業を進めて参り、平成18年に旧中校創立百周年を邁え盛大に記念事業を行いました。

②SKK同窓会の今後

SKKが東北大学工学部に合併され、昭和26年創校となってから既に60年近くが経過し、後継者なき無期同窓会の会員も約80歳以上となり、今後の運営が問題となって参りました。即ち会員の高齢化に伴い体調の不良などによる参加意欲や行動力の低下、及び資金力などが問題で、創立百周年を期して同窓会を解散すべきとの意見もありましたが、我々は青葉工業会の一員であり、その下部組織が一方的に解散すべきではないとの認識に達し、体力の問題はあるものの、SKK同窓会を継続してゆくこととし、SKK同窓会を構成する各科同窓会(土木・東工会、機械・ガバナ一会、電気・石炭会、建築・北産会、化学・社化会、採鉱・鉄鋼会、冶金・鉄鋼会)もそれぞれ活動は縮小するものの、情報の交換や親睦を図って行くこととしました。以上のような状況ですが、今後何年まで継続できるかは予測を許さないことも事実ですので、東北大学工学部のOBの皆様、若い学生諸君には、工学部の歴史の中にはSKKとの深いかがりがありましたことを、青葉記念会館に展示してある「SKK関係資料」をきめて認識して頂き、将来に受け継いで行って頂きたいと願う次第であります。



▲SKK創立100周年記念式典



▲青葉工業会創立50周年記念式典

●青葉工業会とSKK同窓会・東北大学工明会



【お問い合わせ】

青葉工業会(東北大学工学部同窓会)

7990-6578

仙台市青葉区民権字青葉5-6-04 東北大学工学研究科内

tel: (022) 795-7992 / (022) 222-0442

fax: (022) 221-4235